

MONTHLY MAGAZINE

2002年1月1日発行 毎月1回1日発行 第488号 昭和40年1月20日 第三種郵便物認可

KOBECCO

January 2002 **1**

月刊神戸っ子 Vol.488

New Year in KOBE

神戸のお正月

Sightseeing in KOBE

南京町春節祭

春節の料理
華僑の正月情景

神戸のお正月 **山海街**

三社まいり 長田神社 湊川神社 生田神社

異国情緒の新年

関帝廟 バグワン マハビールスワミ ジェイン寺院

六甲山で迎える日の出

摩耶山天上寺 保久良神社

除夜の鐘と港の汽笛



迎春

kinoshita
pearl

株式会社 木下真珠

輝く街から

JEWELRY **タジマ**

神戸市元町2丁目 TEL.078-(431)5361

X

X - T Y P E



the X-Type.

The new Jag generation

新しい私たちのジャガー、X-Type.

¥4,250,000から、ジャガーオーナーに

レザー&ウッドインテリア
2.5 V6/3.0 V6
ジャガートラクション4(全輪駆動)

JAGUAR X-TYPE
○X-TYPE 2.5 V6 ¥4,250,000・全長4,685mm・全幅1,790mm・全高1,420mm・総排気量2,494cc・最高出力145kW(198ps) /6,800r.p.m.(DIN)・最大トルク244Nm/3,000r.p.m.(DIN)・電子制御5速AT
○X-TYPE 2.5 V6 Sport ¥4,550,000 ○X-TYPE 2.5 V6 SE ¥4,750,000
○X-TYPE 3.0 V6 SE ¥5,250,000 ※写真はX-TYPE 2.5 V6 Sport
○価格は車両本体価格/保険料、税金(消費税含む)、登録料及び輸送に伴う諸費用は別途申し受けます。



お問い合わせは、お気軽にどうぞ。
TEL.078-924-4411

ジャガージャパン兵庫地区正規販売店
ジャガー明石
〒673-0031 明石市宮の上1-8



お問い合わせは、お気軽にどうぞ。
TEL.0798-63-6006

ジャガージャパン兵庫地区正規販売店
ジャガー西宮
〒663-8113 西宮市甲子園口5-13-24

謹賀新年

建物の減価償却期間を20年とする 青木 幸夫

(株)エルアイシー代表取締役社長



2002年春に移転開館する兵庫県立美術館“芸術の館”をバックに、青木社長

新年のお慶びを申し上げます。

日本の経済状況は厳寒のなかにあるようにです。

企業も個人も、投資・消費をしようにも行えない状況にあるからです。

その理由は、日本の企業・個人が資産として育んできた土地・株等がすべて大幅にダウンし、20数年前の状況に至り、金融機関は貸倒引当金の大幅な積み上げを市場から要求され、融資をしたくてもできない状況にあるからです。企業も個人も、毎月の資金繰りが苦しく、固定費の削減のためにリストラをせざるを得なくなつたのです。

この時代に、商業不動産コンサルタントの私の意見として、次のような提案を行いたいと思います。

一、建物の減価償却期間を20年とする。

不動産に関する考え方は確実に収益還元法の時代となりました。利益を上げていく企業・個人が建物を新たに建築しようとする流れ・動きを加速的に進めるためには、減価償却期間のスピードをあげる必要があります。

古い建物を整理し、街を活性化し、商売の賑わいを生み出すために、このことは大切なことでもあります。

特に、事業用定期借地権の制度ができた今日、その制度期間にあわせて20年間と定めることは、整合性のあることであり、ゼネコンの体力を蘇らせ、デベロッパーの事業利益にもつながり、賃料のコストダウンにもつながることであろうと思います。

二、固定資産税を下げる。

日本の土地・建物を保有していくにはコストがかかりすぎます。土地の路線価格は大幅に下がったのに土地の固定資産税はほぼ据え置かれたままです。

また、建物の固定資産税も高すぎます。収益還元法の時代に入った今日、不動産を所有しているという意思を喚起するために、固定資産税を実態に即し、見直す必要があると思います。

三、規制緩和を各業種において行う。
行政改革・構造改革は、今、巷間において唱えられている通りであろうと

思います。廃藩置県(県の合併)の必要性も、アメリカの道州制に習い、日本国を20県ぐらいに纏めてしまうような発想が必要で、市町村の大規模な合併も必要です。

各業種の成長を妨げている規制を緩和し、さまざまな業界が競争の原理に基づき、努力すれば結果が得られる時代とする必要があります。

戦後55年を経て、先人の方々のご苦労に感謝しつつ、どんな世の中になればよいかをそれぞれが真剣に考え、行動していかなければならない時に至ってきたと思います。

「土地は活かすべき資源」であり、その活用によりお客さまに収益を生み出す会社としてエルアイシーは努めて参りたいと思っておりますので、本年もエルアイシーを活用いただきますようお願い申し上げます。



商業不動産事業計画コンサルタント
株式会社 エルアイシー

神戸市中央区港島中町6-9-1
ポートアイランド国際交流会館9F
TEL.078-302-4009 FAX.078-302-1320

垂れ桜の動の線上につぼみ

写真 福田 拓

「一分咲きの桜」 糸・針金

佐藤悦枝 作



自然のなかの

線、動、流れを意識しはじめたのは
いつか忘れたけれど…。

存在の片隅にある宝石を

発見したときの感動。

「無^む罣^け礙^が」

ものごとにとらわれない

大きな力のなかで

手仕事の喜びを感じたい。



佐藤悦枝 さとうえつえ

創花人。1963年アートフラワーと出会い、木村貴多子氏に師事。65年神戸ドレスメーカー女学院(現神戸ファッション専門学校)を卒業。68年より布花を故山上るい氏に学ぶ。70年オリジナルミモザグループ結成。95年震災後すぐに初個展、ブルーメール賞を受賞。96年からは毎年KFMファッションショー、97年にはフランスにおける日本のオートクチュールショーに参加。2月1日(金)〜7日(木)まで、元町カルチャー倶楽部にて震災後初の個展を開催予定。

さんちか

Bargain

1/2(水)-14(月)



メルセデスベンツC200
スポーツクーペ KOMPRESSOR

<http://www.santica.com>
santica
The New Heart of Kobe 神戸三宮さんちか

さんちかで初夢!BIGなお年玉!

クイズに答えてメルセデスベンツC200スポーツクーペを当てよう!

期間中、クイズにお答えいただき、正解された方の中から抽選でさんちか賞として、さんちか夢広場に展示のメルセデスベンツC200スポーツクーペを1名様に。また、シュテルン神戸中央賞としてメルセデスベンツオリジナルグッズを30名様にプレゼントし応募ください。

Q: 神戸・三宮
地下街の愛称は? A: **さん〇か**

〇に入る文字を入れて右記の要領でご応募ください。

1月14日(月・祝)まで、さんちか夢広場に展示中! 協賛株式会社シュテルン神戸中央・株式会社オリエントコーポレーション

【賞品】

さんちか賞 **メルセデスベンツC200スポーツクーペ** 1名様
シュテルン神戸中央賞 **メルセデスベンツオリジナルグッズ** 30名様

【応募方法】クイズに答えて、官製はがきに、お名前・ご住所・年齢・職業・電話番号をご記入のうえ1月14日(月・祝)までに必着でご応募ください。抽、お一人で複数のご応募は無効となります。

【応募期間】平成14年1月14日(月・祝)まで

【応募先】〒850-0021神戸市中央区三宮町1-10-1さんちか名店会「メルセデスベンツプレゼント」係
【当選発表】厳正なる抽選のうえ、さんちか賞につきましては平成14年1月17日(木)神戸新聞夕刊紙上及びさんちか夢広場、さんちかホームページにて発表し、ご当選者にもご通知いたします。シュテルン神戸中央賞につきましては、ご当選者への賞品の発送をもってかえさせていただきます。



『New Year in KOBE』 神戸のお正月 山海街



街 三社まいり 長田神社 淡川神社 生田神社

異国情緒の新年 関帝廟 バグワン マハビールスワミ ジェイン寺院 16

海 除夜の鐘と港の汽笛 19

山 六甲山で迎える日の出 摩耶山天上寺 保久良神社 20

Sightseeing in KOBE

春節祭 22

2002神戸南京町春節祭

華僑のお正月料理
華僑のお正月今昔
春節は中国料理三昧



神戸っ子たちの21世紀の夢 51

「神戸ウイングスタジアム」開幕! 43

● TALK ●

新春知事対談

「新しい時代を拓く 魅力あふれる兵庫を」 10

井戸 敏三 玉岡 かおる

● INTERVIEW ●

「震災の教訓を得て誕生した 兵庫県災害対策センター」 36

青砥 謙一(兵庫県防災監)

「水・緑・光で満たされる ウォーターフロントを」 38

松下 紳宏(神戸市助役)

● 連載 ●

Prisme des Arts10

「垂れ桜の動の線上につぼみ」佐藤 悦枝 6

Kiss-FM KOBE

サウンドクルーがつくるおしゃべりなページ 86



● SIRIES ●

●神戸のお嬢さん/入野知子さん 吉永佳世さん 14

●神戸っ子2002/廣高眞奈美 中山広隆 56

●コウベスナップ 58

●ある集い/KFS(神戸ファッションソサエティ) 60
PCK(パールシティ神戸)

●ひらけ大観劇「雅なる王朝の調べ“須磨琴”」 63

●有馬歳時記「“有馬ループバス”登場」 64

●キャンバスマガジン/甲南大学 66

●コウベタウンタウン/LOVE HOUSE“108” 68
地球の寝返り

●ビットイン 70

●ポケットジャーナル 72

●2001FIFAワールドカップ™開幕1年記念イベント 79

●イベントスケジュール 74

●竹久夢二 愛・旅・恋ものがたり 78

「拾遺“泊海岸刃傷事件”の謎」 中右 瑛

●編集長おすすめの旅

「北摂散歩道…箕面・池田の街並みと歴史を歩く」 80

●神戸J.C./第4回サッカーフォーラム in兵庫

●プレゼント 83

●神戸百店会 84

●神戸うまいもん&ドリンクング 86



■新春知事対談

新しい時代を拓く 魅力あふれる兵庫を

井戸敏三兵庫県知事

成長から成熟社会への一大転換期にあつて、人々の価値観も多様化し、物質的な豊かさから心の豊かさが求められるなか、これからの人づくりや兵庫の果たすべき役割について、作家の玉岡かおるさんとともに、大いに語っていただきました。

新しい時代への思い

——明けましておめでとうございませう。二十一世紀最初の年は、いろいろなことがありましたが、振り返ってみてどんな年でしたか。

知事 二十一世紀のスタートを切った昨年は、まさに激動の一年だったといえますね。まず、私自身にとっては、八月から貝原前知事の後に受けて、兵庫県知事に就任し、県の舵取り役を担わせていただいております。

就任後、児童虐待死事件や少女致死事件、牛海綿状脳症問題など、社会を騒がせ、人々を不安にさせる事件や出来事が相次いで生じました。なかでもアメリカの同時多発テロ事件は衝撃的な事件でしたね。

その一方で、神戸市出身の野依良治先生がノーベル化学賞、朝来町出身の淀井敏夫先生が文化勲章を受章

井戸 敏三

〈兵庫県知事〉

玉岡 かおる

〈作家〉



玉岡かおる(たまおか・かおる)
1956(昭和31)年三木市に生まれる。神戸女学院大学卒業後2年間の教諭生活を経て文筆業に転向。1987年「夢食い魚のブルー・グッドバイ」で神戸文学賞を受賞して作家デビュー。主な作品は「なみだ蟹のムーンライト・チアーズ」「クォーター・ムーン」「サイレント・ラブ」など。加古川市在住。

されるなど、兵庫県民にとって嬉しい話題もありました。そして年の瀬には、敬宮愛子内親王がご誕生になり、日本中が笑顔に包まれました。この新しい年は、ぜひ、こうした明るい話題が続けばと願っています。

玉岡 昨年、世の中で起こった事は、アメリカの同時多発テロに象徴されるように思います。時代が曲がり角に来ていると思うのです。ユダヤ資本で経済優先で築き上げられた「パベルの塔」が、別の文化からの攻撃を受けたのですから、世の中に争いの種は尽きないということを再認識させられました。グローバルな視点で世の中を見れば、私たちが悩まなければならぬことはたくさんあります。昨年はそういったことを改めて感じました。

——そうした昨年を踏まえると、新しい年はどうなるのでしょうか。

知事 昨年の同時多発テロ事件は、地球共生時代といわれる二十一世紀に、人類が解決すべき三つの課題を提示したのではないのでしょうか。一つ目は、世界を構成する主権国家間の調整、特に大国アメリカの存在、二つ目は、イスラム原理主義という単一価値しかもたない社会と多元的な価値をもつ社会との共存のあり方、三つ目は、貧困の問題です。

こうした課題を克服するため、国際協調や地域間交流をさらに深めていかなければなりません。神戸港の開港以来、兵庫は海外との窓口として発展してきたわけですから、そうした意味からも、世界の平和に寄与する地域づくりを進めていきたいと考えています。

玉岡 開港以来、時代を振り返ってみますと、西洋文明に追いつくために、日本はひたすら前だけを向いてきました。ここにいたって我々は、経済的あるいは、物質的にほぼ満たされています。しかし、何か取り残してきたんじゃないか、そうした反省点にも立っている年ではないでしょうか。

今年に出版予定の大作は、明治開港のときの留学生女性の話です。作品を書き進めるなかで、ヨーロッパは経済活動と心の豊かさつまり、文化の両輪を回して繁栄を築いてきたのに対し、日本は片側の車輪ばかりを動かしてきたんだということに気がきました。ぜひ、現代日本人に課題を与えるような作品として世に送り出したいと思っています。

知事 二十一世紀の成熟社会では、量的拡大ではなく、質的充実が求められるようになるでしょう。とりわけ、私たち兵庫県民は、あの阪神・

淡路大震災で近代的な文明の脆さを実感しました。

経済学者シユムペーターは、「一大転換期にあつては、さまざまなきとが起ころるものだ」と言っています。成長社会から成熟社会への転換期を迎えたいま、まさにそのことを実感しますね。

成長社会は生産者優先の社会であり、大量生産に必要な効率だとか、画一、スタンダード（標準）が基本とされてきました。それに対して、成熟社会は量より質が問われる時代となり、価値観も多様化してきます。これからは、個々の価値観を大切にしたい仕組みづくりが求められます。

成熟社会を支える人づくり

——社会が転換期を迎えて、人々の価値観が変化すると、そういう新しい時代に対応する人づくりが重要になってきますね。

知事 これまでは社会の要請が画一であったがために教育も一律、標準的な人間が多く生まれがちでした。しかし、これからの成熟社会では、人間としての基本的な生き方をしっかりと身に付けさせながら、一人ひとりの個性を伸ばしていくことが大切になるでしょう。

玉岡 学生時代を振り返ってみると、私は生きにくかった方の生徒だったと思います。画一的な教育のなかでは、どうしても浮いてしまうんです。みんなにできない発想とか、変わったことをするのは得意でしたが、それを分かってくれる先生が少なかったということ、学校のカリキュラム自体がノルマをこなすようなものでしたから学生時代は苦しみましたね。

——現在、兵庫県では、具体的にどのような人づくりに取り組んでいるのですか。

知事 兵庫県では、小学校の「自然学校」、中学校の「トライやる・ウィーク」、高校生の「クリエイティブ21」と、成長段階に応じた体験学習の機会や場の提供に力を注いでいます。「自然学校」では人は自然の一部であることを実感し、「トライやる・ウィーク」では社会とのつながりを学びます。そして、これらで学んだことを生かし、自己主張へとつなげるのが「クリエイティブ21」なのです。

玉岡 私の上の子どもが、最初の「トライやる・ウィーク」実施のときの中学校二年生だったのですが、先生方が生徒を預かってもらえる職場を探すのに苦労されていました

ね。それでもなかなか感動的な結果報告を聞くことができました。地域や人とのふれあいのなかで、社会との関わりや流れを学ぶことは、家庭ではできないし、ましてや学校の教科書のなかでは先生も教えることはできないでしょう。

知事 子どもたちは、感動的な体験を積み重ねることで、より創造的な活動ができるようになるのです。それと、私は、子どもたちに「大きな志を持つ」と常に言っています。

いまのように先が読みにくい時代だからこそ、志を持って大きな夢をめざしていくことが大切なのではないでしょうか。人間とは、大きな目標に向かって頑張っていると、大きな可能性が広がっていくものです。

玉岡 我々大人にも問題があると思います。子どもたちに「大きな夢を描きなさい」と言っておきながら、自分たちも夢を実現できていないかと反省することがあります。子どもたちが「こういう大人になりたい」と思えるような大人が少なくないんです。子どもたちの目標となるような大人でいなければならぬですね。

——子どもたちの目標となるよう、

魅力あふれる兵庫についてお話いただいた井戸敏三知事と玉岡かおるさん



大人も生きがいを持って生きることが大切です。

知事 兵庫県ヒューマンケア研究機構の野尻武敏先生は、「第三の人生」という言葉をよく使われます。第一は学生時代、第二はいわゆる職業時代、第三は定年後の老後です。その第三の人生を、いかに充実して生き

ていくかが大切なのです。ですから、主体的に自分の生きがいを持っている人、あるいはそれを求めている人は、元気に第三の人生を楽しんでいます。

玉岡 第三の人生は、皆さんがそれぞれの人生を自己実現させるときでもあるんですね。そういう自己実現の場は、県民にほとんど用意していただきたいです。

知事 いまは、団塊の世代が、ちょうど第三の人生にさしかかっています。その世代は、戦後の成長社会を支えるために、懸命に働いてきました。しかし、こうした仕事だけに打ち込んできた方々が定年を迎えたとき、いかに生きがいを持つてもらうか、それが大変重要だと思います。

玉岡 二十一世紀には、団塊

の世代もそうですが、その後にくる私たちの世代も含めた大人が、時代を担う子どもたちのために、個性が発揮できる社会を作っていくかなければならないと思います。

魅力あふれる兵庫をめざして

——時代の転換期を迎え、兵庫県ではどのような地域づくりを進めていくとしているのですか。

知事 残念ながら、二十一世紀の始まりを告げる激動の波は、いましばらく続くのではないのでしょうか。それだけに、防災・防犯面はもちろん、良好な生活環境や雇用の確保など、広い意味での安全・安心な社会づくりを進めていきたいと考えています。さらに、すべての人が、「兵庫に住んで良かった」と実感できるような、誇りの持てる地域づくりにも意欲的に取り組んでいきたいですね。

玉岡 私は、兵庫県で生まれ、そして育って、いまも兵庫県に住んでいます。そうした県民に魅力あふれる地域づくりに、県民の一人として、ぜひ積極的に取り組んでほしいと思っています。

知事 昨年、兵庫県のめざすべき将来像を描いた「21世紀兵庫長期ビジ

ョン」を、県民の皆さんと一緒になつてつくりあげました。

例えば、神戸の地域ビジョンでは、『楽しいまち・神戸』がテーマとなつていますが、それは、神戸らしさとは「楽しさ」であるということから導き出されたものです。その他の地域も、それぞれの地域特性を踏まえた個性あるものになっています。

現在、県下十県民局ごとに、各地域のビジョンを具現化するための推進プログラムづくりに地域の方々とともに取り組んでいます。この四月から、そのプログラムもいよいよスタートしますが、県民みんなの参画と協働でビジョンの実現をめざしていきたいと思っています。

玉岡 それが知事のおっしゃる「参画と協働」の県政ですね。

知事 孟子の言葉に「不為也 非不能也（なざるなり あたはざるにあらざるなり）」という言葉があります。これは、「能力がないわけではないのに、やろうとしないこと」が「一番だめなんだ」という意味です。今年はこの言葉をモットーとして、県民の皆さんとしっかりと手を携えながら、『美しい兵庫』づくりに全力をあげていきます。

Mademoiselle du Kobe

神戸のお嬢さん

純で素直な心、愛らしく

入野 知子さん

甲南女子大学文学部3回生

昨年の成人の日に、お母さまとともに美しい着物姿でお目にかかり、親しくお話をさせていただいたとき、「なんと素直で、可愛らしいお

嬢さまなんだろう」と思いました。

甲南中学、甲南高校と進まれ、現在は甲南女子大学に在学中です。絵を描かれたり、活発にドラムを叩かれたり、お姉さまとともに茶道をたしなまれたりと健やかに青春を謳歌しておられます。お料理が得意で、ご家庭では知子さんがお作りになったケーキやクッキー等で、楽しいときを過ごしていらつしやるとか。

末っ子でもあることからご家族からも可愛がられ、入野家のマスコットの存在であり、古風さと現代性を兼ね備えた輝かしいお嬢さまです。



推薦者
若柳吉金吾
邦舞家

夢に向かう瞳まっすぐに

吉永佳世さん
美容師見習い

かつて、今の時代でいうカリスマ美容師であった芦屋の和田キイチさんが佳世さんの母親の叔父にあたります。この度、奇しくも彼の命日に、修行を同じくした私が着付をさせていただきます。そして、髪を結われたのは現役で

美容師を務めておられる佳世さんのお祖母さんです。お母さまは中山手のおなぎ屋「吉永商店」に嫁がれた現在も、美容師として活躍。まさに美容師の家系で育たれた佳世さんもまた、今、三世代美容師への道を踏み出されたばかりです。

美への関心も深く、「着物の女王」のコンテストに出場したり、またお兄さんの影響でしょうか、男の子っ

ほい一面もあり、オートバイを乗り回したりと活発なお嬢さんです。必ず強い意志で素晴らしい美容師になられることと期待しています。



推薦者
田川政子
元美容師



街

三社まいり

生田神社 湊川神社 長田神社

「三社まいりをしましょう」。神戸っ子ならお正月に親しみある、三社まいり。誰でも一度は経験があるのでは？ でも、いつ頃はじまったのか、どうして三社なのか、どんなふうに着したのか、意外と知られていません。



生田神社 なかなか前へ進めない混雑ぶり。でも苦労したぶん、ご利益がありそう(2001年の参拝者は143万人)



湊川神社 新年最初のおまいりを。深夜には若い人の姿が目立つ(2001年の参拝者は134万人)

三社におまいりコトハジメ

三社まいりとは生田神社・湊川神社・長田神社の三社へ、お正月まいりをすること。

神戸の地名は生田神社の「かんべ」が由来ということからもわかるように、神戸と生田神社には長く深い関係があり、長田神社とともに昨年で1800歳をむかえた。一方、湊川

神社は明治から大正、昭和にかけて「楠公さん」と親しまれ、急速に有名に。これは明治政府が明治5年に別格官幣社に指定したことが大きかった。官幣社とは社格の一つで、明治以後は宮内省から幣帛を供進した神社を指す。皇室尊崇の神社および天皇・皇親・功臣を祀る神社のこと、大社・中社・小社・別格官幣社がある。湊川神社は別格官幣社の第一号で、生田神社と長田神社は官幣中社。ちなみに戦後この制度は廃止され、現在は別表神社と呼ぶ。

他にも小さなお宮は神戸にいろいろあって、一の宮から八の宮までまいる八社まいりも盛んだった。ただ、神戸市内に全国でも有名な大きな三社がお祀りされていて比較的近距离にあったので、大正くらいから自然に三社をまいるようになった。

三種の神徳を願って

かつての神戸。明治開港までは農村社会だった。けれども開港後は文



今年の運勢はどうでしょう

神戸のお正月 山海街 New Year in KOBE

明開化の波を受け、都市化、国際化し、急速に人口も増えた。それ以前の神戸っ子は自分の生活にあつた神徳を求め、それぞれの神社におまいりをしてきた。

神戸の守り神である三社はそれぞれのご神徳が違う。

生田神社は「生田さん」と親しまれ、稚日女尊を祀る命の神様。湊川神社は「楠公さん」。南北朝時代の武将・楠木正成といえは知勇、武勇で有名で、参拝者は彼にあやかつて物事に一生懸命尽くせますようにと祈る。「恵比寿さま」「福の神」と親しまれる長田神社は商売繁盛。開運招福、開運厄除、家内安全を願う。人口が増えて都市化した新しい神



長田神社 参拝者は増えたけど、行儀よくおまいりするので和やかな雰囲気(2001年の参拝者は80万人)



獅子舞でお祝いを



破魔矢で縁起をかついで

戸に住む人たちが望んだのは、いきいきとした生活をし、物事に励み、仕事があまくいきますように。そんなのだ、三社の神様のそれぞれのお恵みをすべて受けたいと考えるようになったのだ。そうして明治の中頃から大正にかけ、産業と人口の急速な伸びとともに三社まいは定着してきた。

昭和43年に神戸直線として三宮から西へ路線を乗り入れ、三社がちやうど電車をつながつて便利になつてから後にできたらしい。ただ、昭和40年代に「三社まいり」という言葉は使つてはいない。当時は高速神戸・高速長田・三宮間のフリー切符が生田神社・湊川神社・長田神社への「初詣乗車券」として、記念品引換券つきで発売されていた。昭和50年代になつてから阪急電鉄、神戸高速、神戸電鉄など各社がお正月の三社まいり切符を発売した。こういつた、おまいりの足の確保と時期を同じくして、三社への参拝



長田神社の絵馬



湊川神社のミニ鳳



生田神社の福寿箸

電鉄会社と三社まいり

それでは「三社まいり」という言葉はいつ頃できたの？ 各神社では、「それを言いだしたのほうちではありません」とのこと。実は、最初に「三社まいり」という言葉を使ったのは阪急電鉄らしいのだ。

者が飛躍的にのびた。それ以前はタクシーを使う参拝者が目立っていたけれど、この頃から今にかけては電車を使うのが当たり前。とても便利になった。

ちなみに最近ではカード化されている。けれどもちよつと淋しいことに「三社まいり」カードという形はとつていない。2002年の阪急電鉄は「2002年初詣乗車券」を3種類。「初詣1DAYチケット」(大人800円)、「初詣グロッツとチケット」(大人500円)、「初詣グロッツとワイドチケット」(大人600円)。神戸高速は「神戸高速新春バス2002」(大人500円)。神戸電鉄は「年末・年始7日間フリーバス」で、「神鉄全線版」(大人2000円)、「神鉄・高速版」(大人2500円)を発売。いずれも毎年、神戸の三社まいりをする社寺記念品授与券がついてくる。今年の記念品は、生田神社の福寿箸、湊川神社のミニ鳳、長田神社の絵馬。これらを既にお持ちの方は多いのでは。

三社まいりは神戸の開港、産業の発達、都市化、電鉄の開通に影響を受け、育まれて今の形になった。来年のお正月は神戸の歴史を踏まえた三社まいりをしてみると楽しいかも。

異国情緒の新年

インドのお正月は新月の日 バグワン マハビルスワミ ジェイン寺院

10月の末か11月の中旬の新月の日が、インドのニューイヤヤー。北野町にあるバグワン・マハビルスワミ・ジェイン寺院では、神戸に住むジャイナ教の信者が新月の日の朝6時に集まって下の階でお祈りをす。2階に祭られたマハーヴィーラを始めとする24の神（救済者）は、清めをした人びとによって儀式がなされる。そのあと家族と一緒に1時間お祈りをして地下の部屋に移って全員で軽い食事しながら新年を祝う。祭壇には花も飾られ、いつもは銀色に輝いているマハーヴィーラのご神体も金の箔で飾られ、クラウン



日本ではただひとつしかないジャイナ教の寺院

も豪華なものに代えられる。ジャイナ教の信者は神戸がもつとも多く、朝、素足にサンダルで白い衣を一枚だけ身にまとったインドのひとに出あう。朝、お風呂に入りお祈りのための衣を着たひとだけがマハーヴィーラを祭った神殿に入るこ



ジャイナ教ではAHINSA（不殺生、非暴力）を尊ぶ。そして嘘をつかない、盗みをしな、貞節、執着しないなどの5つの原理がある。サルカール・デベンさんと奥さまのパール（写真左）さんは、今の状況を危惧し戦争や暴力のない世界を願っている



華僑のひとびとの初詣 神戸関帝廟 魏 振昌さん（70歳） 福建同郷会顧問

神戸に住む華僑は関帝廟へ、たいていは旧暦の正月にお供えものをもつてお参りするんですが、今は四世、五世の時代ですから、若いひとは日本的一般家庭と同じように新暦でお参りします。1月1日ですね。僕たちは新も旧もお正月をやるので1年に2つ歳をとるんやなって。

関帝廟にお参りするひとは、年配者の方が多くて、80歳ぐらいだと皆さん杖をついてお参りなさっています。今ではだんだん宗教心が薄れてきて、お供えものは果物とお酒だけをお供えすることが多いですね。

お参りの仕方は、線香を買って、天と地の神さまへ3本供えて、新年の挨拶をするんです。そして本堂に入ってお供えを整えて本尊にお参りします。

30年ぐらい前は、春節の日にはご



神戸関帝廟のお話をする魏さん



↑関帝廟は「南京寺」とも呼ばれている。中央に主神・関帝像、両脇に関平、同龕を従えている→現在の春節のお供えものかずかずが並ぶ

本尊の関帝さんに魚は鯛を、豚肉は頭がついた丸ごと一匹をお供えしたものです。鶏も一羽、頭も足もつけたまま、両脇に伊勢海老とイカ、これで五祝になるんです。海老は有頭海老か伊勢海老、イカはモンゴか剣先イカで茹でたものです。お菓子はゴマパン、果物は3種類、バナナ、ミカン、リンゴですかね。それとお酒、盃で3杯、そしてお茶も3杯。どれも奇数です。

中国は広いですから、省によって春節の料理の作り方が違いますね。僕らは福建省ですから蒸しカシワとか春雨を焚いたり、豚肉のスープを作ったり、ビーフンも使ったりします。

除夜の鐘と港の汽笛

汽笛とともに幕を開ける港の新年。
汽笛を聞いて心を新たにする、今も昔も変わらない港のお正月



昭和47年1月の神戸港。たくさんの船が停泊している。ポートタワーに日の丸が揚がり、静かな正月の雰囲気がただよっている
(撮影/米田定蔵)

新年の汽笛を「除夜の汽笛」と呼ぶ。街に除夜の鐘が響いている頃、港では停泊している船が長い汽笛を鳴らして新年を祝う。汽笛は船の信号であるので、むやみに鳴らすことはできない。港の中で鳴らすことはもつてのほか。その例外が、この「除夜の汽笛」。この汽笛を聞くために、毎年年末に神戸で宿をとる人もいるという。

船は、正月にはマストに国旗と社旗を揚げる。現在はあまり見かけなくなつたものの、ランチやタグボートに松飾りをつける船会社もある。

港で働く人々は、年越し、年明けと、普段と変わらない業務をこなす人が多い。「汽笛を聞きながら仕事しています」という税関の職員たち。震災前まで通船や港めぐり遊覧船の船長をつとめていた角本稔さんは「正月といつても特に関係なく仕事をしていたけど、除夜の汽笛を聞くと同じときだね。貨物のあげ下ろしをする沖仲仕さんたちは年末年始

は休みだったから、港はシーンとしていた。年末には、船は全部塗り替えてびかびかにして、昔ははしけ(貨物を運んだり一時的な水上倉庫になる船)にも松飾りを賑やかに飾って、大型船は満船飾(船の信号旗をつなぎ合わせたもの)を飾ったり。船霊さんふなたまを奉る神棚にお酒を供えて、船首と船尾をお酒で清めて、1年の安全をお祈りした」と話す。

現在では、コンチエルトやバルドメールなどの遊覧船は、船上のカウントダウンや初日の出のクルージングで大賑わい。ポートタワーでは、日の出前から開館して「初日の出展望」を実施、毎年たくさんの人々が、神戸港からの初日の出を拝もうと集まっている。



おだやかな海に昇る日の出